

第71次 印旛地区教育研究研修会 安全教育分科会

研究主題

根木名小学校における新型コロナウイルス感染症予防と

怪我予防の取り組みの実践報告

～新型コロナウイルス感染症予防のための情報共有～



令和3年8月18日(水)
第2部会 安全研究部
富里市立根木名小学校
小倉 司

1 研究主題

**根木名小学校における新型コロナウイルス感染症予防と
怪我予防の取り組みの実践報告
～新型コロナウイルス感染症予防のための情報共有～**

2 研究主題の理由

令和元年度より発生した新型コロナウイルス感染症は今も尚終息することなく、緊急事態宣言や、まん延等防止措置によって、日常生活に制限をかけることとなっている。その中で、各教育委員会や学校規模によって、様々な違いはあるが、休校、時間別登校、時間短縮や圧縮などが行われ、「新しい生活様式」「日常生活を取り戻すための工夫」に基づき、試行錯誤を繰り返し、感染拡大防止に取り組んできた。しかし、各校で行われてきたこと、感染拡大防止のアイデアや工夫のヒントになる情報を共有していないに気が付き、少しでも、『学校において、児童・生徒の安全で安心な環境での学習活動等が行われる状態』になるよう、情報発信をしよう考えた。

また、3年生（現4年生）の児童は新型コロナウイルス感染症の影響で十分に運動することができなかつたからか、令和2年度10月頃から、転倒による怪我が本校で一番多くなった。運動不足が全ての原因と言うわけではないが、基本的な運動感覚を養ったり、危険を予想したりすれば防げるものがあったので、令和2年度後期より可能な限り、体育や日常生活を通して、怪我の予防に努めたことから、2つのテーマで本主題を決定した。

本来であれば、児童の実態をふりかえり、それにそつた研究仮説を立て研究を進めていくことが重要であるが、令和元年度より様々な制限がかかり、令和2年度十分に研究をする土台が無かつたので、このような実践発表といたしました。

3 研究仮説

根木名小学校の感染予防、怪我予防の取り組みを発信することで、少しでも早く、感染拡大や大きな怪我を防げるだろう。

- ・どの学校でも準備できるよう、特別に購入するのではなく、簡単に作ることができる物を紹介していく。
- ・怪我の防止のために体育の授業を中心に、簡単に取り組める運動を行い、基礎感覚を高めていく。

4 研究の内容

教育委員会から伝達される感染対策を基に本校で対策を行い、6月11日（金）に行われる第2部会安全教育研究部の研修において、伝達することで、少しでも感染対策を広げ、児童・生徒の学校生活を守る。

5 研究の実際

・根木名小学校

全校生徒

令和元年度 167名 2年度 152名 3年度 143名

各学年1学級

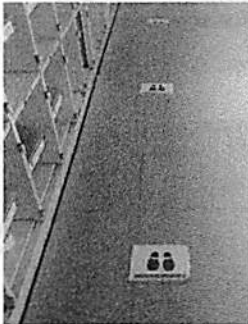
①令和元年度3月～令和2年度4月末

新型コロナウイルス感染症の影響で休校になり、教育委員会からの対応策を受け、児童・生徒が戻ってきたとき、スムーズに学校生活を送るにはどうすれば良いか、話し合い準備をする。

- ・ソーシャルディスタンスを目で見てわかるようにするにはどうすればいいか。
- ・特別教室の利用はどうすれば良いか。
- ・話し合い活動を行うためにはどうすれば良いか。

②令和2年度5月、準備

- ・昇降口での密を避けるため、各学年の並ぶ場所をコンクリートに書く。
- ・様々な場所で「約2m」をわかりやすくするために、足形をラミネートし床に貼り付ける。



教室前の廊下



図書室

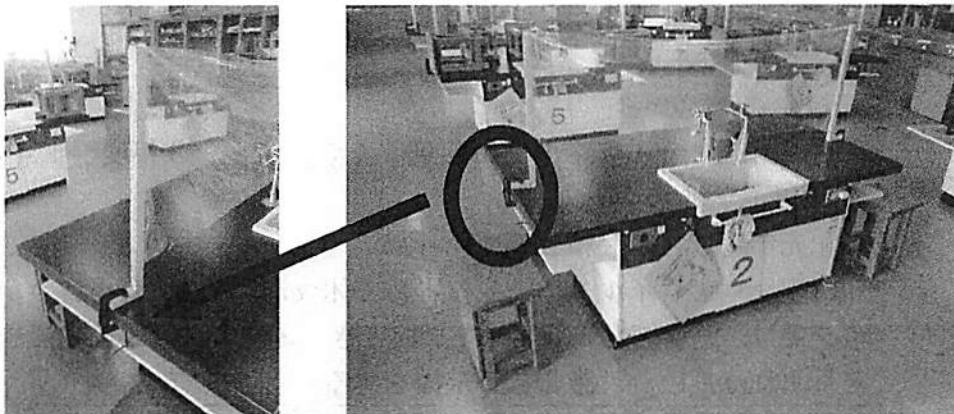


昇降口

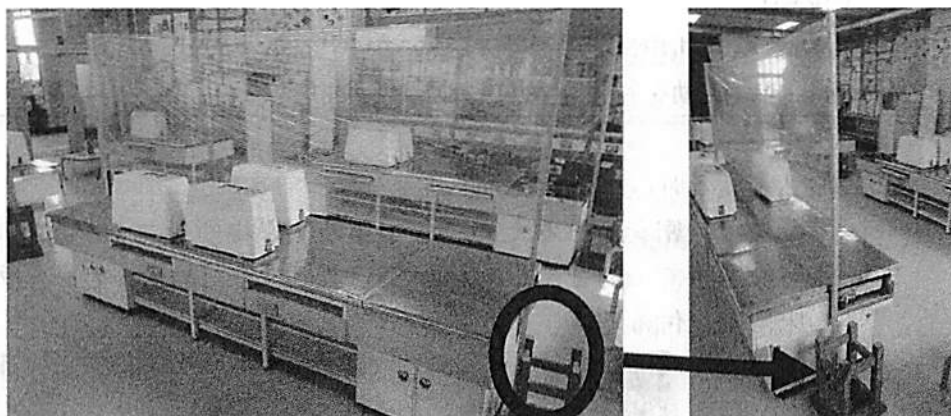
- ・理科室，家庭科室，図工室に，大きなついたてを作り，向かい合ったとき，飛沫が広がらないようにする。

材料 角材1本（1本2m） ビニールシート

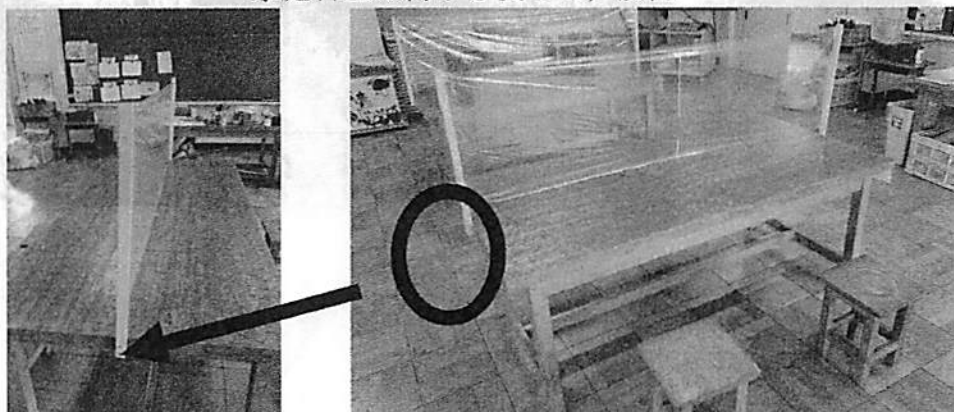
各教室の環境に合わせた物



理科室は万力を使い，机に固定



家庭科室は椅子を使って，設置

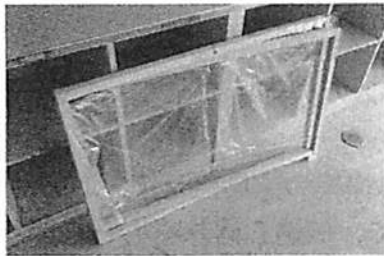


図工室は釘を使い，直接机に固定

※理科室と家庭科室は火を扱う授業があるため着脱可能。

- ・折りたたみ式のついたてを作り，話し合い活動で向かい合っても，飛沫が広がらないようにする。

材料 角材5本（1本2m） 釣り糸 ビニールシート



折りたためてコンパクトに



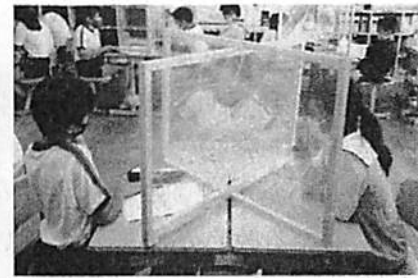
4人グループの机に



開き方を変えて3人グループ用に

③令和2年度6月～

- ・準備した物を使い，授業を実施していく。



④令和2年10月～

- ・3年生（現4年生）で転倒による怪我（つまづきが原因と思われるもの）が増えてきたため，担任と協力して「足を擦らない歩き方（ウォーキング）」や「体幹を意識した走り方（基本的な走り方）」を体育の準備運動で取り入れて基礎感覚を高める。

※週に1～2人保健室で「転んだ」と治療を受けていた。怪我をした場所は教室，校庭，通学路と多岐にわたる

⑤令和3年1月

- ・校内安全マップに取り組み、学校内の危険な場所や、休み時間の安全な過ごし方について学習をした。

⑥令和3年4月～現在

- ・4年生で朝の会の中で「姿勢や気持ちを整える運動（白樺の姿勢）」「バランス感覚を鍛える運動（やじろべえ）」を取り入れる。

⑦6月11日（金）二部会安全主任等研修会（本提案の感染症対策とPCR検査キット受付・回収について紙面開催）で、伝達し感想をもらう。

○研修会の感想（本提案の内容のみ抜粋）

- ・足形はわかりやすくソーシャルディスタンスを守れるので、良いと思いました。
- ・足形は人が集まる場所（図書室や昇降口）に有効だと思った。
- ・折りたたみ式のついたてがあることで、児童・生徒が安心して向かい合って活動できると思いました。
- ・特別教室を利用する際どうすれば良いか悩んでいたもので、参考にさせていただきました。
- ・大型のついたては「室内の空気の循環の妨げになる」という情報もあるので、更なる改良が必要だと思いました
- ・今回のようなことは、災害にあったときにも応用ができるのではないかと思います。

6 成果と課題

○成果

- ・学校再開当初、職員も児童・生徒も、恐る恐る生活していたが、足形のおかげで、自然と距離を保てたり、ソーシャルディスタンスの意識をもてたりした。
- ・ついたてがあることで、グループで話し合ったり、作業したりすることができ、児童・生徒が緊急事態宣言前のように活動することができた。
- ・取り組んだことが全てではないが、児童・生徒同士の感染拡大は発生していない。（家庭内感染はあり、対象学年はPCR検査を実施した）
- ・怪我の多かった学年も、校内安全マップに取り組んだこと、運動や外遊びを続けたことで、安全に対する意識や運動能力の向上により、転倒による怪我は減った。（今年度7月までに3件）
- ・全校児童数が少ないこともあり、足形やついたての修理は昨年1回程度だったので、職員の負担も少なかった。

●課題

- ・情報の発信という点で、今年度の6月という他の学校でもある程度感染対策が確立されている時期だったので、目新しい情報を発信できなかった。
- ・本校は各学年30人以下と全校児童数も少ないことで可能だったことも多い。大規模校では実施できなかったり、中学校のように部活動に対して何か対策ができたかという点ではなかった。
- ・使用後の消毒に時間かかった。使用頻度の高かった折りたたみ式のついたては、次の時間他学年が使う場合苦労した。

今回の研究で、新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、目に見えないものへの恐怖、いつまで続くかわからない不安、制限がある中で、以前のような生活に近付けようとするものの難しさを痛感しました。本当に、今までであった「当たり前の学校生活」が、いかに充実していたか、何気ない日常生活の大切さを思い知りました。

しかし、このことは、災害発生時でも同じようなことが言えるので、嘆くばかりではなく、少しでもこの経験をいかせるようにしていきたいと思えます。

これからも、ワクチン接種や新たな変異ウイルス、再度の緊急事態宣言など、先の見えない状態が続いていくことが考えられるので、最新の情報を得て対策をして、『児童・生徒の安全で安心な環境での学習活動等が行われる状態』を保ち、これ以上「新しい生活様式の日常生活」が脅かされないようにしていきたいと思えます。

参考

文部科学省・千葉県教育委員会・富里市教育委員会
各HPの新型コロナウイルス感染症予防に関わる資料